

# 心臓血管外科医が行う総合診療科 TOPICS



こんにちは。私は毎週火曜日の午前と午後に総合診療科を担当している志村です。それ以外の曜日は東邦大学医療センター大橋病院心臓血管外科で診療を行っています。

私は主に大動脈疾患の外科診療を担当しており、大血管外科と呼称されます。私の場合は大動脈手術に付随したものが多くなります。疾患としては大動脈瘤や大動脈解離です。治療は開胸開腹による人工血管置換術やステントグラフト内挿術という血管内治療で、よく「お薬では治りませんか？」と聞かれますが、残念ながら現代の医学では大動脈瘤治療は手術だけとなります。大動脈瘤を有する大動脈は内側にコレステロールのかたまりがこびり付いた「粥状（じゅくじょう）硬化」や大動脈の壁が石のように硬くなる「石灰化」などと呼ばれる変性を伴っていることが多く、いわば動脈硬化の「なれの果て」とも言えます。また、大動脈瘤患者さんの約3割では、心臓を栄養する冠動脈に狭窄や閉塞を伴うことがあり、カテーテル治療や冠動脈バイパスが必要となることもあります。私は「動脈硬化、太い血管より太く、細い血管より細く」と交通標語のように唱えております。

大動脈瘤は自覚症状に乏しく破裂して初めて胸痛や腹痛といった症状が出現します。しかしその時はすでに手遅れであり、多くは検診や他の疾患での診療中に発見されます。ただし胸部大動脈瘤は声帯につながる左反回神経が引き延ばされて声がかすれたり、腹部大動脈瘤は自分で腹部の拍動を触知して発見されたりすることがあるので心当たりのある方は私の外来を受診してください。大動脈瘤の診療ではCT検査や超音波検査といった画像診断検査を多用します。ですので、私は画像診断検査を行う敷居が低くその有効性をより高く認識しているかもしれません。

さて、総合診療科ではなんとなく頭が重い、肩が凝る、めまいがする、疲労感が取れない、背中や腰に鈍痛があるなど、様々な症状の患者さんが初診で来られます。また、他のクリニックや病院で今まで診断がつかなかった方が受

診されることもあります。こういう症状を「不定愁訴」といって、重大な疾患の前駆症状であることもあり、私の外来ではこういった患者さんには放射線検査、超音波検査、生理機能検査、血液生化学検査等、徹底的に検査することになっています。CT検査では放射線被曝を極力回避しつつ検査によって得られる効果を考慮して施行します。とうめい厚木クリニックには大学病院に勝るとも劣らない性能の検査機器があります。また、検査技師さんの実力と積極性も同様で、いつも積極的に検査指示を受けて下さいます。こうした検査の結果、自律神経失調症や過労が原因だったと判ることがありますが、徹底的な検査の結果なので、患者さんは納得され、治療や生活改善に積極的に取り組んで下さいます。一方で、この一年間で甲状腺機能亢進症、狭心症、肺癌、膵臓癌、子宮腫瘍、等といった重大疾患が検査で発見される患者さんもおり、早期治療に繋げることができました。

健診結果や不定愁訴を主訴に40～50歳代の高血圧症や高脂血症、糖尿病といった生活習慣病の入り口におられる患者さんも多く受診されます。こういった患者さんには私が見てきた大動脈の所見や、破裂や解離に対する救命手術の様子をリアルにお伝えしています。まさに今後健康でいられるか否（私の執刀患者さんになる）かの分岐点に立っておられることを認識していただき、共に治療計画を立て、禁煙や運動療法、脂質塩分制限等の生活改善に取り組んでおります。

これまで手術一辺倒に診療してまいりましたが、とうめい厚木クリニックで総合診療を担当させて頂いたことで、多岐にわたる疾患と、「なれの果て」になる前の動脈硬化予備軍ともいえる患者さんに出会えており、それを予防する診療に携える喜びも感じております。今後とも問口は広く、知識は深く診療していけるよう、より一層勉強して参りたく思います。

東邦大学医療センター大橋病院

心臓血管外科教授 志村 信一郎



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950

